

第6学年 国語科学習指導案

日 時：令和7年9月24日（水）
第5校時 13:30～14:15
学 級：6年2組 32名
会 場：6年2組教室
指導者：尾久第六小学校 6年担任

自分の考えをもち、主体的・対話的に学びを深める児童の育成
～国語科「読むこと(文学的文章)」を通して～

1. 単元名 物語を読んで考えたことを、伝え合おう

教材名 「ぼくのブック・ウーマン」ヘザー＝ヘンソン作 藤原 宏之訳

2. 単元の目標

知識及び技能	・日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに役立つと気付くことができる。(知(3)才)
思考力、判断力、表現力等	・人物像や物語などの全体像を具体的に想像することができる。(思C(1)エ) ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。(思C(1)オ)
学びに向かう力、人間性等	・進んで文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめ、学習課題に沿って考えたことを伝え合うことができる。

3. 単元の評価標準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに役立つと気付いている。	① 「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像している。 ② 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。	① 進んで学習計画を立て、学習の見通しをもって作品を読もうとしている。 ② 進んで文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめ、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。

4. 児童の実態

本学級は、男子15名、女子17名、計32名の学級である。5年生の3月に学習した物語文「大造じいさんとガン」では、情景描写から心情の変化を読み取る学習をした。また、6年生の4月に学習した物語文「帰り道」では、登場人物の人物像や出来事、情景描写に着目しながら、登場人物の心情の変化を捉えた。これまで物語の叙述に着目して読む学習を積み重ねてきたが、令和7年度全国学力・学習状況調査の結果では、叙述を基にしながら、文章全体の構成を捉えて要旨を把握する項目に大きな課題が見られた。日々の学習の様子から見ても叙述の内容を取り違えて、自分の思い込みで読みを進めてしまうことが課題につながっている児童がいると分析する。

そこで本単元では、まず主人公のカルの心情の変化や人物像、出来事等について、“叙述を基に文章の内容を捉えること”を意識していく。精査・解釈で身に付けた読みの力を生かして、学習ゴールでは自分自身の経験と結び付けながら、「自分にとってのブック・ウーマン」は誰であるかを語ることができる力へつなげていく。

また、本学級の児童は自己の考えを話すことを好む傾向にあり、話し合い活動では、友達の発言に対して肯定的に捉えることができる児童が多い。一方で、問い合わせをしたり話し合いを通して自分の考えを広げたり深めたりしようとする様子はあまり見られない。そのため本単元では、“対話”をキーワードに、児童が自分の考えを形成するに当たって、より必要感のある児童同士の協働的な学びの実現を目指していく。対話を通して自分の考えを広げたり、時に考え方を変容させたりすることができる力を身に付けさせたい。

5. 単元について

本教材は、はじめは本に関心を示さなかった「カル」が、ある日移動図書館であるブック・ウーマンが山道を越え、山奥のカルの家まで本を届けにやって来たことをきっかけとして、考え方を変容させていく物語である。ブック・ウーマンや家族との関わり、ブック・ウーマンの献身的な活動や本との出会いなどを通じて、読書の楽しさに気付く「カル」の心情の変化を読み取ることができる。学校生活の中で読み聞かせをしてもらう経験や、充実した図書室を生かして本に触れる機会が多い環境で育った本学級の児童にとって、「カル」の心情に自分の経験を重ね合わせやすい教材である。

道も道路も整っていない1930年代のアメリカ・ケンタッキー州が舞台になっていることを押さえ、今は本に触れる環境が当たり前だが、当時はそうではなかったことに気付かせていきたい。また、自分自身が家族や周囲の人から本を勧められたり、読み聞かせしてもらったりした経験を振り返ることで、作品の学びを自分の生活に重ね合わせて考えられるようにする。

前単元「帰り道」では、二人の登場人物の視点を叙述に基づいて比べて読みながら心情の変化を捉え、特に印象に残ったことについて自分の考えを伝え合う活動をした。本単元では、その経験を生かし、「カルにとってのブック・ウーマン」を読み取った上で、自分自身の生活や読書経験などと結び付けて「自分にとってのブック・ウーマン」を考えさせていく。

6. 研究主題に迫るための手立て

(1)確かな知識・技能の習得

・読書活動

「ぼくのブック・ウーマン」は、1930年代のアメリカのケンタッキー州が舞台となっている。児童に物語の背景を理解させる手立ての一つとして、図書を活用した資料提示を行う。社会科の学習と関連させながら、当時のアメリカの時代背景や山岳地帯の様子が分かる資料を活用して、物語のイメージをもてるようになる。資料から、当時のアメリカにとって本がいかに貴重なものであったかについても気付かせていく。

(2)単元構成の工夫

・単元全体の目標の明確化

単元の導入では、「ぼくのブック・ウーマン」の扉ページを活用し、挿絵や題名から想像を広げたり、リード文から物語を知るきっかけを掴んだりすることで、作品に没入するきっかけを作る。単元の始めに、今回の学習ゴールである「自分にとってのブック・ウーマン」について語る様子を映した教師作成のモデル動画を提示する。そうすることで、「自分にとってのブック・ウーマンは誰なのだろうか。」「みんなにとってのブック・ウーマンを知りたい。」といった目的意識をもつことができ、学習計画を立てる際にも、読み深める視点を明確にすることができる。また共有では「自分にとってのブック・ウーマン」を、学年で交流し合う「ぼくのブック・ウーマン交流会」を行い、児童が相手意識をもって学習に臨むことができるようになる。

・ワークシートの工夫

第2、3時の精査・解釈で「カルに影響を与えた人」を考える活動と、第4時の考えの形成で「自分にとってのブック・ウーマン」を考える活動では、ワークシートにまとめる要件を同じにすることで、物語を通して身に付けた読みの視点を、自分の考えを形成する際にも当てはめて考えることができるようになる。第4時の考えの形成ではメモを取る活動を行うが、児童が考えを表出しやすいように自身でメモの形式（精査・解釈のワークシートと同じ形式・ヒントのない無地・思考の流れが番号で記されたもの）を選択できるようにして学習の個性化を図る。

(3)学びを深めるための工夫

・学習形態の工夫

「自分にとってのブック・ウーマン」についてメモを基に考えを交流する際には、誰が何について選んでいるのかが明確になるように、ホワイトボードに名前マグネットを貼り、自己の考えを可視化する。児童は、対話の相手を自分で選択して、必要に応じて交流できるようにする。また交流を通して得た考えを、メモに記してさらに内容を膨らませたり、メモを基に交流会の練習をしたり、再度交流して自分の考えを確かめたりなど、児童が自分の目的に沿って自由に学びを調整できるような学習環境を整える。

・ICTの活用

単元導入時の「自分にとってのブック・ウーマン」について語る様子を映した教師作成のモデル動画は、児童が必要に応じて見返すことができるよう、タブレットにデータとして保存する。また本時では、対話モデルを示した動画を提示する。児童が友達とどのように対話をし、また対話を通してどのように考えを深めたらよいのかを考える方法の一つとして適宜活用できるようにする。

7. 単元の指導と評価の計画

時	◆目標・学習内容	評価		
		知 技 表	思 判 表	態 度
1	<p>◆教材文を読み、学習計画を立てることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・扉ページから物語を想像する。 ・物語を読み、登場人物を確かめる。 ・学習計画を立てる。 ・モデル動画を示し、単元のゴールをイメージする。 		①	<p>◎進んで学習計画を立て、学習の見通しをもって作品を読もうとしている。 <発言・記述></p>
2	<p>◆本と出会う前と後の「カル」の心情の変化を読み取ることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カルの心情の変化を、文章中の叙述を根拠に読み取る。 ・カルはなぜ本に興味をもつようになったのかを付箋を用いて考える。 ・似たような考えをもつ友達と意見を共有し、考えを付け足す。 ・家族、ブック・ウーマン、読書経験などがカルにどのような影響を与えたかを読み取る。 		①	<p>◎「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像している。 <発言・記述></p>
3	◆カルに影響を与えた人について、考えを伝え合うことができる。			

	<ul style="list-style-type: none"> ・カルに影響を与えたと思う人や出来事について、グループで伝え合う。 ・カルが本に興味をもつようになったのは、自己の世界観を広げてくれた人たちがいるからであることを確認する。 ・カルが今後どのように過ごしていくかを想像する。 ・自分にとってのブック・ウーマンについて、簡単に考え、次時の見通しをもつ。 	②	②	<p>◎「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。 <発言・記述></p> <p>◎進んで文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめ、学習課題に沿って考えたことを伝え合うとしている。 <発言・記述></p>
4 本時	<p>◆自分の生活や読書経験などと結び付けながら、考えをまとめることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分にとってのブック・ウーマン」について、メモに考えをまとめる。 ・対話することで考えが深まることをねらった教師作成のモデル動画を示し、対話の仕方を知る。 ・児童の必要感に応じて、個人でまとめたり、話し合ったりして、「ぼくのブック・ウーマン交流会」に向けた準備をする。 	②		<p>◎「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。</p>
5	<p>◆「自分にとってのブック・ウーマン」について考えたことを語り合うことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流会の流れを確認する。 ・1組と2組の4人程度のグループで「ぼくのブック・ウーマン交流会」を行う。 ・「ぼくのブック・ウーマン交流会」を通して考えたことを振り返る。 	①		<p>◎日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに役立つと気付いている。 <発言・記述></p>

8. 本時の学習(4/5)

(1) ねらい

- ・自分の生活や読書経験などと結び付けながら、考えをまとめることができる。

(2) 展開

時間	○主な学習活動	※指導上の留意点 ★評価()評価方法
5分	<ul style="list-style-type: none"> ○前時の学習を振り返る。 ○本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 自分の読書経験を振り返り「自分にとってのブック・ウーマン」をまとめよう。 </div> ○学習の見通しをもつ。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> ○ブック・ウーマンとは…本に興味をもたせてくれた人 ・先生・家族・司書・友達・店員・作者など </div> 	<p>※カルにとってのブック・ウーマンはどのような存在だったのかを確認する。</p>
35分	<ul style="list-style-type: none"> ○「自分にとってのブック・ウーマン」について、ワークシートにメモでまとめる。 <div style="border-left: 1px solid blue; padding-left: 10px; margin-top: 5px;"> ・自分に影響を与えてくれた人 ・出来事・心に響いた言葉 ・本への思いや考え方の変化 ・これから自分の自分 </div> ○教師作成のモデル動画を示し、対話の仕方を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> ・自分の考えを述べる ・友達の考えに共感する ・感想や同じような体験があつたら共有する ・友達の考えに対する疑問点を質問する ・より分かりやすい内容にするために考えを精選する </div> ○「ぼくのブック・ウーマン交流会」に向けて準備する。 	<p>※ワークシートの形式を選択できるようにして学習の個性化を図る。</p> <p>※モデル動画の視聴を通して、対話の意図を明確にする。</p> <p>①相手に自分の考えが十分伝わっているかを確かめる。 ②対話を通して自分の考えを広げたり深めたりする。</p> <p>※交流会の準備として、ワークシートのメモだけでなく、作文用紙やタブレットなども児童が自由に使用できるようにする。</p> <p>★「読むことに」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(発言・記述)</p>
5分	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りの観点「今日の学習でできしたこと」や「次時への思い」について確認し、振り返りカードに記入する。 ○次時の見通しをもつ。 <ul style="list-style-type: none"> ・本時のワークシートや資料を基に「ぼくのブック・ウーマン交流会」を行うことを伝える。 	<p>※意図的指名をして、振り返りカードに書いた内容やまとめたことを共有する。</p> <p>※次時の活動に見通しがもてるようになる。</p>